

日本歯周病学会第22回歯科衛生士教育講演会の報告

特定非営利活動法人日本歯周病学会第22回歯科衛生士教育講演会を以下のように開催いたしました。

**研修会名：**日本歯周病学会第22回歯科衛生士教育講演会  
(社団法人日本歯科衛生士会 第3次生涯研修)

**主催：**日本歯周病学会 (歯科衛生士関連委員会)

**協力：**愛媛県歯科衛生士会

**日時：**平成21年12月6日(日) 13:00～16:20

**場所：**愛媛県歯科技術専門学校 3階 合同講義室  
(愛媛県伊予郡砥部町高尾田543、TEL/FAX 089-913-3000)

**演題：**「ペリオドンタルメディシンにおける歯科衛生士の役割」

- ・ 歯周病とは (分類、特徴、多様性と再発の危険性等)
- ・ 全身疾患と歯周病
- ・ 原因、症状の説明に必要な知識 (組織学、病理学、細菌学等)
- ・ 高齢者と有病者の歯周治療

**講師：**日本歯周病学会歯科衛生士関連委員会 委員長 沼部幸博

**研修単位：**(1)(2)の両方に該当する場合は、(1)(2)それぞれの単位取得が可能

(1) 日本歯周病学会 会員の場合

- ・ 認定歯科衛生士制度における申請時の教育研修単位 (参加者8単位)
- ・ 更新時の生涯研修単位 (10単位)

(2) 日本歯科衛生士会 会員の場合

- ・第3次生涯研修単位に基づく専門研修単位（歯周治療の基本技術4単位）
  - I-A 歯周病とは（分類、特徴、多様性と再発の危険性等） 1単位
  - I-A 全身疾患と歯周病 1単位
  - III-C 原因、病状の説明に必要な知識（組織学、病理学、細菌学等） 1単位
  - III-E 高齢者と有病者の歯周治療 1単位

日程：12:30 受付

13:00 開会

13:10 講義「ペリオドンタルメディシンにおける歯科衛生士の役割 歯周病の病因と病態」

14:20 休憩

14:30 講義「ペリオドンタルメディシンにおける歯科衛生士の役割 ペリオドンタルメディシンと歯周基本治療」

15:50 質疑応答

16:20 閉会

**内容：** 受講生は100名の歯科衛生士及び歯科衛生士学校学生であった。はじめに、愛媛県歯科衛生士会会長の松田智子氏の挨拶、続けて研修単位の説明があった。その後、講師紹介、講演に入った。講演では、最初に本学会の認定歯科衛生士制度の目的と概要、その取得方法、ガイドブックの発刊、日本歯科衛生士会とのコラボレーションの意義について話をした。

その後、歯周病の特徴を、バイオフィルムと炎症をキーワードに解説、続けて「フロスカ死か！」の意味、すなわち慢性歯周炎患者において、微弱な炎症の持続によりにより、心臓病、肺炎、脳血管障害、一部のがん、早期低体重児出産などのリスクが高まること、さらに糖尿病治療に影響がでることのエビデンスと、それらへの歯科衛生士としての対応について解説した。それ故に、歯周病は全身の健康に関わる重要な問題で、歯科衛生士は命を脅かす疾病予防の一翼を担い、患者の健康維持に大きく貢献していることを強調した。

また講演の後半では、歯科衛生士がこれらのペリオドンタルメディシンをどの

ように捉え、取り組んで行くべきか、そして今後それらの知識を患者へのモチベーションや治療に繋げてゆく戦略について、基本治療の実例をあげ、解説を行った。

#### 感想：

最初は、事後アンケートにおいて、内容がやさしすぎる、または既知の内容であるなどと指摘されるのでは？と思ったが、実際には、新しい知識でこれまでの概念を変えるきっかけを見いだせたこと、または知識の再整理になったことなどが書かれていて、本講演の方向性は誤っていなかったと感じた。しかしその分、基礎的な解説の部分に時間を費やさなければならず、治療に関する臨床例の提示が充分に出来ず、話す側としてはもう少し講演時間が必要と感じた。参加者側の希望でも、次回はもっと臨床的な話が聞きたいという声も多かったようである。その反面、衛生士校の学生も参加しており、話の構成を、如何に聞き手の臨床経験や要望に応じてこまやかに変化させてゆくかが、今後の課題だと思う。

このように概ね好評の様子であったが、学校での講義ではないので、座学だけでなく、短時間でも実習が組み込めれば、参加者の満足度がさらに高まるものと考えられた。

以上

文責

日本歯周病学会認定歯科衛生士関連委員会 委員長

沼部幸博